

牛ウイルス性下痢・粘膜病を予防しましょう！

全国的に増加している、経済的なダメージの大きい病気。
現時点で最も対策すべき病気のひとつです。

昨年度、県内酪農家でもPI牛が摘発されました。

ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD)とは

- ・牛、めん山羊、豚、シカ等に感染する届出伝染病。
- ・健康牛(非妊娠牛)へ感染した場合、
一過性の発熱、下痢、呼吸器症状を呈するか、
感染のみで症状は出ず、終生免疫を獲得。
- ・**妊娠牛へ感染した場合、**
胚死滅、流死産、胎子の奇形・ミイラ化、
持続感染牛(PI牛)を分娩
- ・**子牛(概ね3ヶ月齢未満)へ感染した場合、**
免疫抑制作用により重篤な合併症(呼吸器病)の誘因となる。

持続感染牛(PI牛)とは・・・

授精後80～120日の妊娠牛が感染すると、胎子も感染する。

ウイルスを自己と認識してしまい、
この病気に対して免疫が働かない状態となって、生まれてくる。

子牛は**症状が不明確で** (なんとなく弱い、発育が悪い程度)
死ぬまで断続的にウイルスを排出し、農場を汚染する。

ウイルス変異などで「粘膜病」に移行すると、
粘血便、食欲廃絶、衰弱などの症状を呈して死亡する。

農場へウイルスが侵入する原因は？

- ・導入牛 あるいは 公共牧場へ預託した育成牛 が、**持続感染牛を分娩**することによって汚染される事例が多い。

ワクチンを接種して、感染を予防しましょう！

- ・ワクチン接種で予防できます
- ・妊娠牛へは不活化ワクチン(初回は2度)
呼吸器病を含んだ混合ワクチン接種が推奨されています
- ・詳しくは、NOSA獣医師へご相談を

定期的に農場の汚染状況を確認しましょう！

- ・PI牛は治療法がなく、早期に摘発・淘汰することが重要です
検査は、血液やバルク乳中の遺伝子検査で実施できます
ので家畜保健衛生所までご相談下さい
- ・摘発された場合 自主淘汰(手当金なし)、と場出荷できない

こんな状況になっていたら、要注意です！

リピートブリーダーが目立つ

(授精後発情がこないから受胎したと思ったのに…
40日齢の妊娠鑑定でプラスだったのに…)

異常産(流死産、奇形胎子)が続く

哺乳の群れで、咳き込む子牛が目立つ

山梨県東部家畜保健衛生所

電話・・・055-262-3166 FAX・・・055-262-3108

夜間の連絡は・・・090-5535-8005

土日・休日の連絡は・・・090-5535-8005 または090-5544-7868